

追悼のことば

故 姫路市保健所長 毛利好孝先生のご逝去に対しまして、謹んで哀悼の辞を捧げます。このたびの訃報に接し、われわれ全国保健所長会関係者一同、いきなり足を掬われたかのようにぼう然とするばかりで、あなたが帰らぬ人となった寂しさ、無念さは、とうてい言葉では言い表しようもなく、只々悲しさでいっぱいです。

先生が、齢いまだ 61 歳、何事にも一生懸命で亡くなる直前まで仕事を遣り抜かれた姿勢には、畏敬の念を禁じえません。亡くなる 3 週前に登壇された地域保健総合推進事業発表会の座長においては、膵臓癌の痛みをこらえながらも立派に成し遂げられました。

正義感に溢れ、誠実な人柄と幅広い識見のもと、何事に対しても常に情熱を持って真摯に取り組まれました。社会の本質を見抜き、自分の意志を真つすぐに貫かれるだけでなく、誰に対しても心遣いを怠らず、どなたからも信頼され、慕われていらっしやいました。小生から見れば、坂本龍馬のような方でした。

あなたの後ろ姿をお手本として仕事をしてきた公衆衛生関係者はどれだけ多くいることでしょうか。先生は持ち前の先見の明を持って、常に数年先を見据えて警鐘を鳴らしてこられました。絶えず新しい時代を切り開くときには先駆的な提言をしていただき、あたかも私達の羅針盤のごとく、公衆衛生従事者をお導きいただきましたその功績には感謝しかありません。

顧みますと、毛利先生は昭和 63 年に岡山大学医学部を卒業後、厚生省に入省され、健康政策局を振り出しに、岡山県、旧環境庁、高知県、神戸市等に勤務後、平成 18 年に兵庫県龍野保健所長、平成 20 年兵庫県健康福祉部健康局医務課長、平成 22 年姫路市保健所長、平成 27 年たつの市医監兼市民病院事務総長、平成 30 年岡山県備中保健長等を経て、令和 2 年から再び姫路市保健所長として、コロナ対応などの難局に対しても最後の最後まで立ち止まることなくご活躍いただきました。

これまでの豊富な経験や見識を活かし、公衆衛生行政の発展のためにより一層御活躍いただけるものと思っただけに、我々のもとを永遠に去られることとなったことは何とも残念でなりません。このうえは、先生の志を受け継ぎ、公衆衛生行政発展のために一層努めることを誓いますとともに、どうか安らかに眠られんことを心からお祈り申し上げ、名残は尽きませんが、謹んで追悼の言葉といたします。

令和 6 年 3 月 30 日

滋賀県長浜保健所長 嶋村清志